

招待講演1 略歴

座長

矢野 諭 (やの さとし)

日本慢性期医療協会 副会長
医療法人社団大和会 多摩川病院 理事長

■ 略歴 ■

1983年3月	北海道大学医学部卒業 第2外科入局 腫瘍外科学、呼吸器外科学の診療・研究に従事
1993年3月	医学博士号取得
1996年4月	NTT 東日本札幌病院 外科医長・救急部医長(兼任)
2006年4月	南小樽病院副院長
2009年4月	医療法人社団青優会 南小樽病院 病院長
2013年10月	医療法人社団大和会 多摩川病院 理事長
現在	一般社団法人日本慢性期医療協会 副会長 同「診療機能評価基準委員会」委員長 同「看護師特定行為研修委員会」委員長 一般社団法人日本地域医療学会 副理事長 東京大学大学院医学系研究科 非常勤講師

所属学会

日本老年医学会、日本臨床栄養代謝学会、
日本リハビリテーション医学会、日本医療・病院管理学会、
日本臨床倫理学会
日本地域医療学会

演者

西浦 博 (にしうら ひろし)

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻環境衛生学分野 教授

■ 略歴 ■

大阪府出身、2002年に宮崎医科大学医学部を卒業、2006年に広島大学大学院博士課程修了。英国、ドイツ、オランダ、香港などで感染症数理モデルの研究に従事。2013年東京大学准教授、2016年北海道大学教授を歴任し、2020年8月から京都大学で現職。2020年2月からは厚生労働省の新型コロナウイルス感染症対策本部においてクラスター対策班の企画・活動に携わった。

IL1

新型コロナウイルス感染症のこれまでと今後の見通し

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻環境衛生学分野 教授

西浦 博

新型コロナウイルス感染症の流行後、既に2年半が経過した。国民の間で2回の予防接種が完了するまでは非特異的対策が広く行われ、これまでの日常が大きく変化した。現在までにオミクロン株の発生による流行の遷延などを認めてきたが、パンデミックからの出口が模索されている。本講演では慢性期医療を専門にする先生方を対象に、ここまでの疫学的特徴や流行対策の有効性について解説し、今後の流行の見通しについて共有する。特に、予防接種効果の変遷による今後の人口レベルでの免疫見通しについて考察し、施設内感染に関する今後のリスク評価とその見込みについて検討する。